

君津市「文化のまちづくり市税1%支援事業」

「新たな貞元地区文化の創造」

貞元まちづくり

No 3

発行 平成21年11月19日

編集 貞元地域まちづくり推進委員会

君津市上湯江1287-3

貞元コミュニティセンター内

TEL 0439-52-8030

活動報告

貞元地域まちづくり推進委員会総会

6月13日18時30分から、貞元コミュニティセンターで開催し、本年度は「調査資料のまとめ」「新たな貞元地区文化の提案事項の検討」を主体にした活動計画と、予算節減の意見が付され承認された。21年度は、新委員に新自治会長、農業委員が加わり総勢97名で活動します。

まちづくり先進事例地の視察

7月4日、23名が参加して、茨城県関城町の「特定非営利活動法人 里山を守る会」と笠間市の「笠間市クラインガルテン（ドイツ語で小さな庭 滞在型市民農園）」を視察しました。

「里山を守る会」は、会員100名で年間を通して子ども達の自然体験活動の充実と環境保全を図るため、雑木林を整備し、里山として活用し、かつ人々の憩いの場とすることにより自然と人間が共生できる豊かな社会の実現に向けて活動しています。

田んぼで田植えや稲刈り、夏には子供にホタルを見せたくて、寒い時期からホタルの幼虫が住みやすい環境整備もしています。

まちづくりの継続は、強力なリーダーがいること。看板に「自分の責任で自由に遊ぶ！」事故は自分の責任という考えが根本にあること。

貞元で同様の事業を実施する場合に、大変参考になりました。



里山を守る会の概要を聞く

「笠間市クラインガルテン」は、笠間市が、新たな生活文化の提案として「農芸と陶芸のハーモニー」をテーマに、都市住民が地域住民と交流を持ちながら草花や野菜を栽培し、心身共にリフレッシュできる農村生活空間として、笠間市が建設、平成13年4月開設、管理はJAがしています。

クラインガルテン50区画（1区画300㎡、宿泊施設37.3㎡、利用料金は年間40万円です。日帰り市民農園は50区画、交流施設、直売所等があります。

一部の農園利用者は笠間市に定住し本格的に田舎暮らしを実践したいという希望が寄せられているそうです。

貞元でも定住、交流人口増対策のひとつになると思いますが、初期投資が課題になりそうです。



宿泊施設と日帰り農園

まちあるき及びワークショップ

9月19日、今回は新御堂と小香地区でしたが区域が狭いことから、それぞれ1班でまちあるき及びワークショップを実施した。

大勢では多くの目で見ることができ、人任せになりがちや意見が反映しにくいこともあり、1グループ7名前後が望ましいと感じた。

新御堂の班名は「稲村の会」で、まとめは、里山の風情を残すむら。課題は、学習と交流を通じて里山を整備して楽しい地域の活力の礎とする。小香の班名は「ホタルと棚田の里」で、まとめは、ホタルと自然と共生できる環境をつくる必要があることでした。これらの資料は、コミセン大会議室に掲示してありますので、ご覧ください。

まちづくり調査報告会

A. 貞元地域の暮らしの姿 —世帯、お仕事、農業の形と展望—

報告者 千葉大学大学院 准教授 齋藤雪彦 (指導監修・コメント作成)
須川陽平 (データ作成)

今年1月に実施した「暮らしに関するアンケート」について、11月1日に行われた報告会のまとめです。(アンケート回収529名)

- 5世帯に1世帯は高齢者のみの世帯
 - 10代、30代、40代が少ない。
 - 先祖代々、来住者ともに高齢化
全国平均22.1% < 高齢化率25% < 過疎地域
 - * 貞元地域(本アンケート) 65歳以上
 $297 / 1168 = 25.4\%$
→ 少子高齢化が進んでいる。
- 「販売農家は全世帯の1/3」
 - 米のみ63(75%) 米と野菜 16(19%) 野菜のみ 3(4%)
 - 農地面積の合計 2ヘクタール以下にまんべんなく分布
 - 畑は概ね1ヘクタール以下 休耕地は概ね3反以下、数もそれほど多くない。
 - 「やむをえず農業やる 約4割」「農業続けるつもり 約3割」
 - 「子世帯が家を継いでも」、「農業後継者少ない約20/500世帯」
 - 農作業時間週5時間を超える担い手は、ほとんど60代以上
→ 農業の衰退と非農家増大。休耕地は少ないが今後は心配である。
- 兼業先は都市型で比較的安定している。
 - 「住み続けたい」満足度高い。
 - 「まちになる」は望まない「今の環境を活かして活性化していく」が多い。約60%
 - 「自然」「のんびり」「静か」と評価。
 - 農地への愛着が強い(転用売却希望は6%以下)
→ 現状の地域の体力は恵まれているが、今後は心配である。
- 先祖代々・来住された方、販売農家・自給農家・非農家と立場の違いによって、意見・希望が少しずつ異なる(現状維持、不便さ解消等)
→ 違いを分かり合う、話し合うこと重要である。
- まとめ
 - 現状認識が大事である。(自分の立場で考えがち、全体の傾向を見ること)
 - 「10年先、20年先の貞元地域に子供が帰ってくるまちづくり」をする。
 - 非農家、都市住民の力で農地を守っていく時代が来ることが想定される。

※データ、図表は、コミセン大会議室に掲示。

千葉大学大学院による調査

- 市内調査 (齋藤先生 随員齋藤・小林)
君津市において貞元地域は、どのような位置づけにあるかを確認するため、車と徒歩でくまなく調査しました。
平家の子孫が住んでいると云われている久留里の奥や、小さな直売所、オートキャンプ場、フルーツ農園の人との会話などから、意外な発見・出会いがありました。

調査日

6月2日 久留里・亀山方面
6月3日 小糸川右岸・三島・豊英方面
6月9日 鹿野山・周南・市内方面

2. 余暇実態調査(齋藤先生)

農村地域で暮らす人々がどのような暮らし、余暇を過ごしているか10月22日、11月1日の2日間にわたり定年者4名、現役4名をインタビューしました。

さだもと地区子どもの遊び生活調査の結果

報告者 千葉大学大学院 近江屋 一朗

貞元小学校の協力で「子供の遊び生活調査」について、8月23日に行われた報告会のまとめです。

1. 貞元地区に生活する子どもたちの生活は都市化の傾向にあり、習い事などに費やす時間が余暇時間を削っています。
2. 農村地域の少子化傾向に加えて、習い事の日時や場所が子どもによって異なることが子どもたちの遊び集団を形成しにくくしています。
3. その結果、子どもたちの遊びは住宅の中での小さな集団での遊びが主要なものとなっています。
4. 住宅周辺の屋外環境（庭、道路）は都市域では失われてしまった貴重な遊び場であるので、保全が望まれます。
5. 農村地域独自の遊びを通じて子どもたちが成長するためには、地域や学校が意図的な取り組みをしていくことが必要であると考えられます。
6. 東京都渋谷区の小学校では総合的な学習の時間に地域のお年寄りが子どもたちにベーゴマなどの遊びを教える「昔遊びの時間」を設けているところがあります。また、文化祭などの催しで「昔遊び」のコーナーも設置されています。学校側が地域の人たちの協力を得て、子どもたちに遊びを伝達する場を設けている取り組みの例です。この場合、単発での取り組みではなく、継続して遊びを伝える機会を設けることが重要です。地域の大人と子どもたちが知り合いになり、遊びの発展や地域の安全性の向上などが期待できます。
7. 住民が主体的に遊びの場を作り、それを学校側がサポートするという例もあります。

現在、「冒険遊び場づくり協会」が推進しているプレーパークという遊び場は子どもたちが自由に火を使い、のこぎりを使い、水を使って遊ぶことができる場所です。プレーリーダーという大人が子どもたちを見守ることで成り立っています。このような遊び場を設立したいという住民の取り組みがあった場合は、学校や

行政のサポートが必要となってきます。農村地域は冒険遊び場を作るには空間的に適しているため、このような運動が起こる土台は整っていると考えられます。

8. 以上、現状の遊びの衰退を子どもたちだけの力で克服するのは難しい段階です。「地域・PTA」と「学校」の相互協力による何らかの取り組みが必要な時期であると考えられます。いずれ子どもたちが自分自身の力で遊びを生み出していけるように、大人たちが子どもの遊びを支えていく仕組みづくりが望まれます。

※データ、図表は貞元地区子どもの生活時間調査報告をご覧ください。

貞元地域の整備

○六手・貞元線

平成23年度の供用に向けて、今年度は盛土派川江川にボックスカルバートの敷設等の工事を進めています。

○派川江川と小糸川との合流地点に橋の建設（コミセンにあるまちづくり意見箱に意見有）

22年度建設に向け21年度は調査を実施中。

○八幡と外箕輪・杵師間に橋の建設

建設に向け今年度はルート選定の調査中。

○ふれあい広場

市道君津駅前線ふれあい橋そばに計画中。

○稲村の里の整備（郡地区 江川四季の会）

子供から大人まで自由に遊べるツリーハウス、キャンプ場、山道等逐次整備中。

○本郷バイパス

早期着工に向け富津市と協働で県に要望中。

○千葉県健康と癒しの森30選

君津市は、三舟山、久留里城山の森、清和県民の森、君津亀山少年自然の家のカ所が選定されました。（広報きみつ10月より）

新たな貞元地区文化の創造

いやさか祭りに参加

いやさか祭りには現在中富地区だけが参加しておりますが、貞元地区全体で参加の復活をすべく、今年は市場・郡・郡の杜自治会から20名が中富自治会に合流して参加しました。

れんげの里のふれあい

10月31日に開催された「れんげの里のふれあい」には、まちづくり推進委員会として、共通の課題である「地域文化の創造」と更なる充実に向けて、「まちあるきとワークショップのパネル」の展示、「小糸川ものがたり一大草平内の川回し」のビデオ上映、「新米味くらべ」をしました。「新米味くらべ」は、初めての試みで内容については、下記をご参照ください。

もったいない活かそう地域資源

「新たな貞元地区文化の創造」のひとつの試みとして、栗山市場自治会長の協力で市場自治会員に新米を試食してもらい、注文をとったと

ころ約10俵になりました。

また、11月15日は、小香地区でミカン狩りを実施、20名が参加しました。

身近でミカン狩りを通して交流が図られ、提供者も喜ばれていました。将来は、ミカンの手入れの応援をして、資源の活用を考えています。

米、ミカンの収益の一部は、まちづくり推進委員会の運営資金にします。

君津市杉谷貸し農園

まちづくり推進委員の鈴木文男さんが、笠間市のクラインガルテンを参考に、当面、規模は小さい(畑5区画、田、簡易施設)ですが、モデルとして、まちづくり推進委員会も全面的に協力したいと一緒に進めています。

問合せは、鈴木文男(52-4509)

郡ダム周辺地域振興推進会議

江川四季の会(郡)を中心として、郡ダム及び周辺の山林を活用した施設整備、ワーキングホリデイ、ウォーキング等の活動をしています。

新米味くらべ

(小学生)

	A		B		C		D	
	コシヒカリ 名	点	天日干コシヒカリ 名	点	ヒカリ新世紀 名	点	ふさこがね 名	点
1番	6	24	14	56			4	16
2番	4	12	3	9	13	39	4	12
3番	7	14	2	4	9	18	6	12
4番	7	7	5	5	2	2	10	10
得点順位	24	57	24	74	24	59	24	50
	3		1		2		4	

(その他)

	A		B		C		D	
	コシヒカリ 名	点	天日干コシヒカリ 名	点	ヒカリ新世紀 名	点	ふさこがね 名	点
1番	16	64	5	20	9	36	11	44
2番	11	33	4	12	13	39	13	39
3番	8	16	9	18	13	26	11	22
4番	6	6	23	23	6	6	6	6
得点順位	41	119	41	73	41	107	41	111
	1		4		3		2	

(総合)

	A		B		C		D	
	コシヒカリ 名	点	天日干コシヒカリ 名	点	ヒカリ新世紀 名	点	ふさこがね 名	点
1番	22	88	19	76	9	36	15	60
2番	15	45	7	21	26	78	17	51
3番	15	30	11	22	22	44	17	33
4番	13	13	28	28	8	8	16	16
得点順位	65	176	65	147	65	166	65	160
	1		4		2		3	

1. 点は、1番:4点 2番:3点 3番:2点 4番:1点とした。
2. ヒカリ新世紀は、99.9%以上コシヒカリの遺伝子を受け継いでいる新品種で、倒伏に強い、多収穫です。
3. 食味値は、「アミロース(低いと粘りがある)」「たんぱく質(少ないとふっくらとしたご飯)」「水分(16%に近いほうがよい)」「脂肪酸度(古米化の進み具合、低いほうがよい)の成分を測定し、算出します。

平成21. 10. 31 れんげの里のふれあい
主催 貞元地域まちづくり推進委員会

感想(数字は人数、なしは1名)

1. Aについて、小学生は甘かった。その他の人は、香り(2)、甘み(5)、ねばり(2)味が濃い、口全体に広がる、歯ごたえ、つや、食感が良い、もちもち感。
2. Bについて、小学生はもちり、甘味があった。
3. Cについて、その他の人は、臭みがなかった、ゴハンらしく感じる、甘味とねばりがちょうど良いもちもち感。
4. Dについては、その他の人は、香り、甘み(4)味が濃い、歯ざわりと固さ(固いご飯が好き)

比較結果

1. いずれも新米で食味値が高くその差が少ないので、順位付けに悩まれたと思います。
2. その中で大きな差があったのはBの天日干して、Bの炊き方が少し軟らかかったことで、小学生に好まれたのではと想定されます。炊き方の大事さを示したとも云えます。
3. 個人の好みもあり、必ずしもコシヒカリでなくてもおいしいご飯があるといえます。
4. 今回は、いずれも新米でしたが、古米を含めた比較もしてみたいと思います。

ご協力ありがとうございました。